

「寿都町の将来に向けた勉強会」（第14回勉強会）開催概要

1. 日 時 2023年1月19日（木）18:30～20:32
2. 場 所 寿都町総合文化センターウィズコム2F会議室
3. 出席者 【勉強会会員】：10名
【ファシリテーター】：北海道大学 竹田先生
4. タイムライン
＜勉強会＞
18:30～18:40 本日の進め方、福島第一原子力発電所の視察について
18:40～19:25 文献調査の進捗状況報告
19:25～19:33 水冷破碎岩の再説明
19:38～19:45 「町の将来ビジョン」議論の整理（第11回～13回の振り返り）
19:45～20:25 「町の将来ビジョン」の深堀り対話
20:25～20:32 次回以降の進め方ほか

5. 主な内容

（1）福島第一原子力発電所の視察について

- ・ご要望のあった福島第一原子力発電所の視察について、4月、5月で1回ずつ予約が取れる見込み。本日出席のメンバーのスケジュールに加え、欠席のメンバーにも予定を確認のうえ、実施に向けて調整していくこととなった。（アンケートを行ったところ、今回参加者10名のうち9名が視察をしたいと回答）
- ・北海道新聞から同行取材したい旨の申し出があり、メンバーの意向を聞いたところ、今回出席メンバーからは拒否の意思表示はなかった。

＜質問＞

- ・福島県に行くなら大熊町のまちづくり関連として、地元の方との意見交換についてもリクエストしていたと思うのだが、今回の視察に合わせて行くことはできないのか。
→大熊町のほか、水素やロボット関連等、福島では様々な視察のご要望があることは承知している。今回は行程上、福島第一原子力発電所に限定した視察と考えている。ご要望の件は別途相談させていただきたい。

（2）文献調査の進捗状況報告

- ・NUMOより文献調査の進捗状況を説明
（資料は第14回寿都町「対話の場」で使用した資料と同じもの）

＜主な質問＞

- ・資料中のボーリング実施箇所①～③以外の緑印は何を示しているのか。
- ・資料中の「朱太温泉」は「湯別の湯」のことか。「湯別の湯」は地下1,000m付近から温泉を引いていると聞いている。この結果から「当該地域はダメだ（処分地として適していない）」という判断にはならないのか。

- ・知人から、地層処分技術WGには地震学の専門家がいないと聞いた。また、NUMOが独自に意見を聞いた専門家には地震の知見がある人もいるようだが、事業者のNUMOが専門家を選んでいるのは恣意的なのではないか。
- ・寿都でも最近地震があった。地震が最終処分場に与える影響は考慮しなくていいのか疑問。地震動により地下環境がどうなるのか勉強会で紹介してもらうことは意義があるのではないか。
- ・資料中の「7つの評価項目」の7つとは何か。
- ・「7つの評価項目」に地下水が含まれていないのはなぜか。
- ・文献調査では地下水については調べないのか。
- ・科学的特性マップに地下水情報を落とし込むと、不適地が増えるのか。

(3) 水冷破碎岩の再説明

- ・NUMOから水冷破碎岩に関する再説明（資料なし）

<背景>

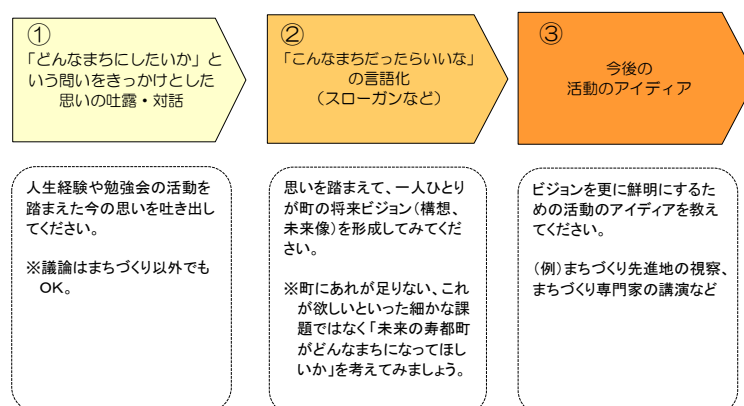
- ・第12回勉強会において、町内に配布されたチラシの記載などが、「勉強会におけるNUMOの説明と相違しているのではないか」とメンバーから指摘があったことを受け、改めて水冷破碎岩に関する説明を実施したものの。

<NUMOからコメント>

- ・勉強会でNUMOが説明したことを、ご家族、知人にお話したり、SNSや印刷物などで発信されることがあると思うが、正確ではない情報を発信されることで、受け手が不安に思ったり勘違いをしてしまうことは、本意ではない。発信する際には、必要に応じNUMOにご相談いただくなど、正しく発信をしていただきたい。

(4) 「町の将来ビジョン」議論の整理（第11回～13回の振り返り）

- ・第11回～13回で、以下の③まで対話を重ねてきた。



- ・対話の結果、様々な活動アイデアや課題が出ているので、ここでいったん立ち止まり、「町の将来ビジョン」について再度一人ひとりが掘り下げて考えてみてほしい。特に「自分たちが自らできること」という視点に立って対話を進めてほしい。

(5) 「町の将来ビジョン」の深掘り対話

< 基幹産業が必要 >

- ・ I T 企業や水素研究所を基幹産業とした町（漁業、農業は衰退していくのでは）。
 - ・ 町が変わる必要がある。交通インフラの整備も必要。
 - ・ 安定した雇用が欲しい。そのためには①外から企業を誘致する、②地場産業の拡大、という 2 つの手段が考えられる。
 - ・ ①、②にはメリット、デメリットがそれぞれある。
 - ①メリット：即効性がある
 - デメリット：事業に失敗すると撤退されるリスクがある。地場産業が衰退してしまう。
 - ②メリット：簡単には撤退しない。
 - デメリット：効果が出るのに時間がかかる。
- ①と②のハイブリッドが理想かもしれない。

< 生活に楽しさが必要 >

- ・ 子どもを大事にしても外が魅力的だから町外に出て行ってしまう。
 - 子育て環境の充実と町自体の魅力が必要。
- ・ 道の駅はあるが滞在型ではない。当時とそれほど人口が変化しているわけではないのに、昔は祭りがすごく盛り上がっていた。
 - 寿都が楽しいと思い、寿都で育てて、寿都で働ける環境が必要。

(6) 次回以降のすすめ方ほか

① 次回以降のすすめ方について

- ・ まだ議論の薄い「文化・教育」分野の活動アイディアの広がり・深掘りについて対話を継続。
- ・ 4～5月に計画の福島第一原子力発電所視察の予定等について調整状況を紹介。

(質問)

- ・ これまで NUMO 側からの説明を聞いてきたので、地層処分に慎重な立場の専門家の話を聞いてみたい、という話があったと思うが実施に向けた状況はどうか。
 - 本勉強会の開始当初からリクエストがあった事項、今後の課題と認識している。

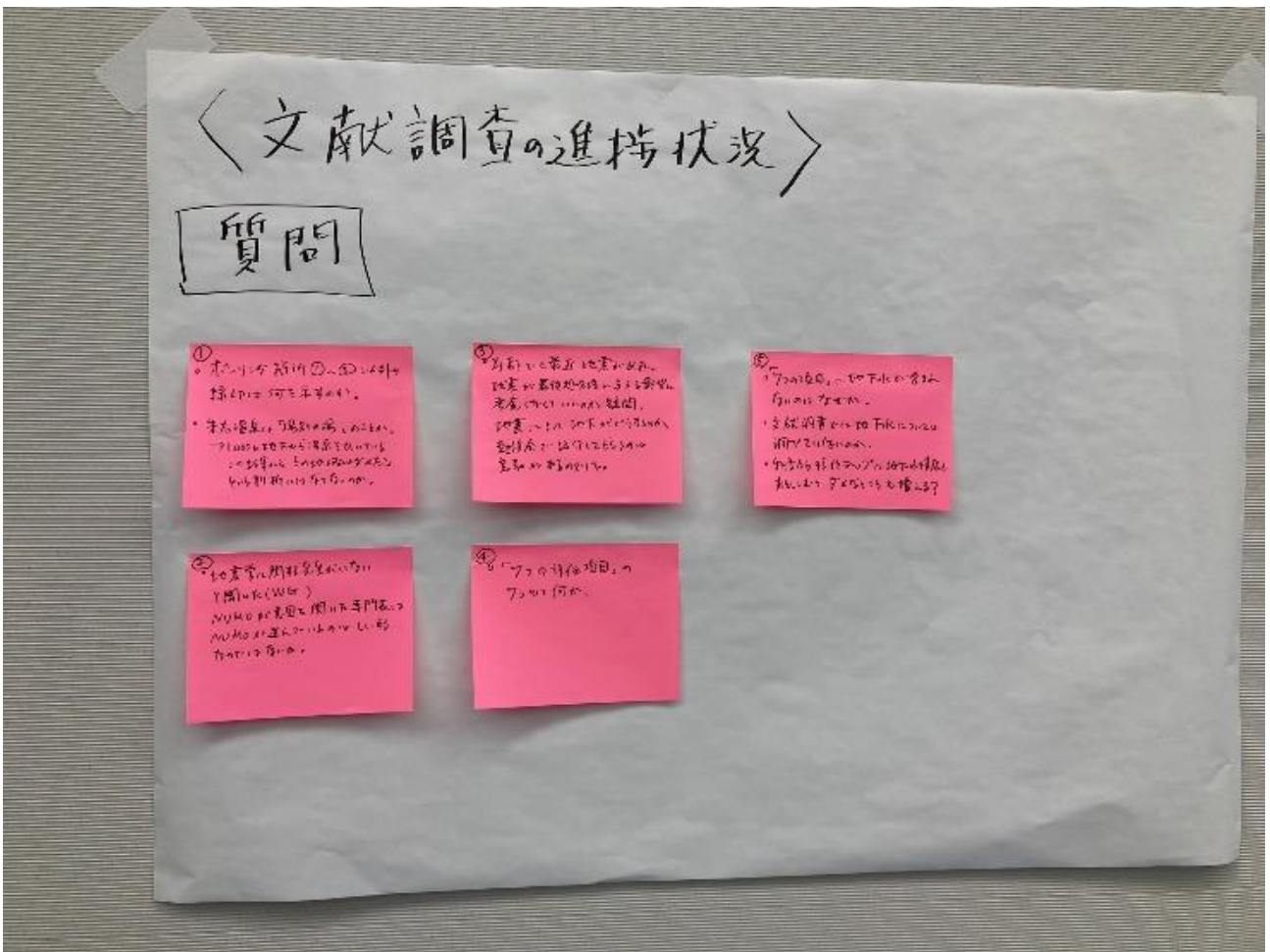
② 次回の日程について

次回は3月23日（木）18：30開催としたい。

→メンバー了承

以 上

【写真】意見交換の様子



< 1/9 町の将来ビジョンについて >

I 企業 水産研究所
を基幹産業とした町
(漁業 農業の衰退に
いかに?)

交通インフラを整える
必要あり。
町が変わる必要がある

安定した雇用の確保
→ ① 企業の誘致
② 地域産業の
拡大

①のメリット 過剰性あり
デメリット 労働力の確保
が難しい
②のメリット 労働力の確保
が容易
デメリット 労働力の確保
が難しい

→ ①と②の
ハイブリッドが
理想かもしれない

子育て世代にも
町が求めている
(外からの魅力の乏しから)
→ 子育て環境の充実と
町自体の魅力

道の駅は必ずしも
必要ではない。
昔は駅もなかったが
今も町は発展している
→ 町が求めている
環境が重要